

■ 本会議の今後の取組みの方向性について

《趣 旨》

◆ 今後の取組みの方向性について認識共有を図るため、まずは意見交換を行いたい。

- 会議のあり方について(分科会における議論の活用等)
- 提言内容を踏まえた具体的な方策について

※本日何かしらの結論を求めるものではなく、各メンバーの意見を踏まえて、議長とも相談のうえ、次回以降の会議で議論いただくことを想定。

- ・フィランソロピー会議として今年 3 月末に報告書を取りまとめ、これまでの活動を振り返るとともに、今後の方向性まで記載。この機に、報告書に基づく進め方について、参画メンバー間で認識を共有することが重要。
- ・報告書P67「今後の取組みの方向性」では、将来へ向けて提言を実現するプラットフォームとしての役割を果たしていくこと、及び、非営利法人を取り巻く課題の解決に向けた取組みを引き続き推進することを記載。
- ・この 2 点について、それぞれのお立場から様々な考え方があると思われ、新たな一步を踏み出すにあたり、認識を合わせるためにも、今後どのように取り組んでいくべきか、などご意見をいただきたい。
- ・なお、行政として推進している副首都ビジョンは、見直しを行う時期に来ており、その中で「民都・大阪」の取組みについても、これから検証、検討を進める予定であり、本会議の方向性との整合性は一つのポイントと考えている。

次頁以降、参考資料
(既存資料から抜粋)

取組み例

■ フィランソロピーの促進、非営利セクターの活性化

市民・非営利セクターの役割が世界的にも大きくなり、寄附や社会的投資等を通じて社会的課題の解決を図るフィランソロピーが世界の潮流になりつつある。

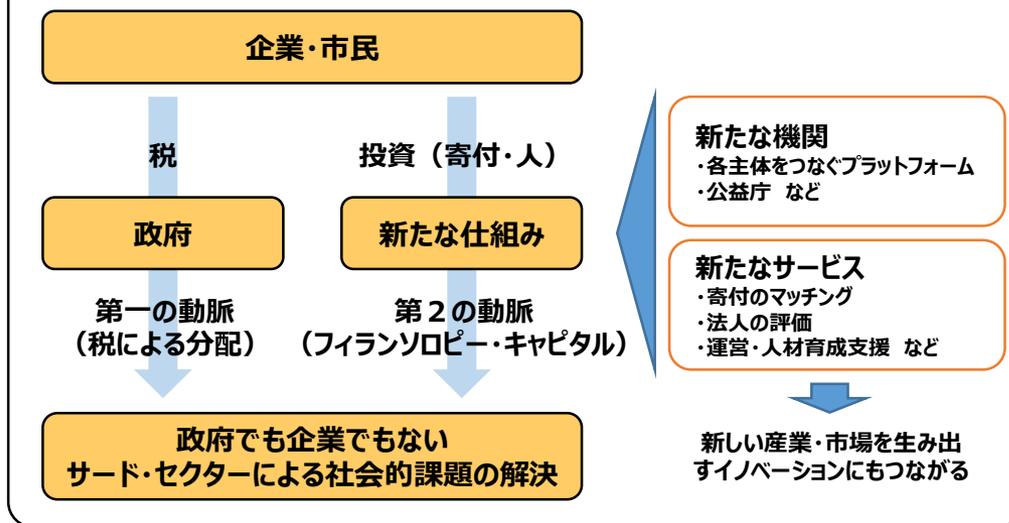
フィランソロピーの促進により第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を大阪に取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、大阪が「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」をめざす。

まずは、公益社団・財団法人や学校法人、社会福祉法人、NPO法人など多様な担い手が参画する「『民都・大阪』フィランソロピー会議」において、「民都・大阪」の実現に向けた議論・検討を行う。

「民都・大阪」フィランソロピー会議の取組み

- 「民都・大阪」の実現に向け、多様な担い手が法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、その存在感を国内外に示す「核となる場」として、「民都・大阪」フィランソロピー会議をつくる
- 新たな連携や協働を生み出し、フィランソロピー都市宣言等により国内外に発信することで、第2の動脈として資金や人材を集め、民間公益活動の活性化につながるソーシャルイノベーションを創出
- 新たな産業や市場、雇用を生み出すことで大阪の成長にもつなげていく

第2の動脈のイメージ



【「民都・大阪」フィランソロピー会議を通じた好循環のイメージ】



■ 会議の構成等

- 官民が協力して設置する民間組織（大阪方式）
- サード・セクター及び社会的企業のトップ層、有識者、府及び市幹部で構成（10～15名程度の規模とし、議長を置く）
- 包摂的組織として分科会を設け、会議としての開放性を担保する
- まずは会議としてスタートし、将来は民間組織による運営を目指す（当面、副首都推進局が事務局を担う）

議論・検討する事項

- *「民都・大阪」の実現に向けた都市政策や、大阪の民（サード・セクター）はどうあるべきか、新たな連携・協働を生み出すためには何が必要か等に関する議論・検討
- *「民都・大阪」に向けた取組みを民主導で持続可能なものとしていくための仕組みや体制はどうあるべきか等を検討 など

■ 会議の5原則

1. 中長期的に東京一極集中を打破することを目的とするものであること
2. 「民都・大阪」を目指すものであること
3. 民と官の新しい協力から生まれるものであること
4. 基礎自治体等のNPO政策を阻害するものではないこと
5. 縦割りの施策を面（地域）として捉えなおし、これまででない連携や協働を生み出すことを目指すものであること

■「民都・大阪」フィランソロピー会議

議論・決定の場

【構成・内容等】

- ・官民協力による民間組織。サード・セクターのトップ層等で構成（必要に応じ、分科会リーダーも参加）
- ・「民都・大阪」の実現に向けた都市政策や、大阪の民（サード・セクター）はどうあるべきか、新たな連携・協働を生み出すためには何が必要か等の議論・検討
- ・分科会に関すること（設置、リーダーの選任、成果の共有・具体化など）
- ・「民都・大阪」フィランソロピー大会に関すること
- ・事務局は、当面、副首都推進局が担う

■分科会

個別テーマの検討

【構成・内容等】

- ・大阪で活躍する多様な主体に共通する課題の解決につながる新たな仕組みづくりなどの検討
- ・社会的課題の解決につながる従来とは異なる新たな手法や、複数の社会的課題の解決につながる新たな連携などについて検討
- ・まず、「資金」・「人材」・「情報」の分科会を設置。原則として、各リーダーが自主的に運営

※現在は、共創分科会、文化・芸術分科会も含めた5分科会

■(仮称)大阪フィランソロピー大会

イベント（情報発信の場）

【内容】

- ・「民都・大阪」フィランソロピー会議や分科会の取組み等の発表・意見交換、情報発信の場
- ・大阪フィランソロピー都市宣言
- ・講演やパネルディスカッション、フィランソロピー促進に係る先進事例の紹介など